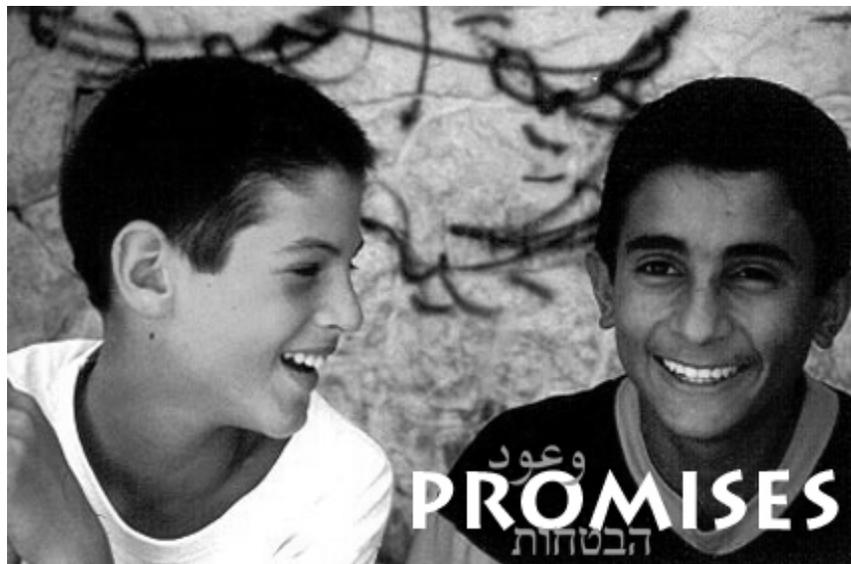


# 「プロミス」 映像で見るパレスチナ

～ 「共生と平和を求めて」パネルディスカッション～



ほんの20分と離れていないところに住んでいるのにお互いのことを全く知らないパレスチナとイスラエルの子供たち。

敵対する社会に暮らしながら、お互いへの興味を募らせる子どもたち。

政治なんか関係ない子どもたちに焦点を当てたとき、一個人として人を見たとき、人と人が憎しみあう理由などそこにはないのではないのか…

「思いやりの対義語は無関心である」という言葉がある。それでは逆に関心を持つことは何につながるのでしょうか。この春、僕はパレスチナにある難民キャンプを訪れました。そこで出会った人々は口々に、「私たちの現状をどう思う?」「私たちの生活をもっと知ってくれ!」「写真を撮れ!そして、多くの人に伝えてくれ!」と僕に訴えてきました。それはこのパレスチナ問題がもはや当事者だけでは解決できないということを暗に示していました。国際化社会と呼ばれる中、単にモノと情報が行き交うだけでいいのでしょうか。彼らは僕たちの助けを求めています。まず、この映画を多くの人に見てほしい。そして多くの人に関心を持ってもらいたい。それが遠く離れたパレスチナの地に思いやりを届ける第一歩だと思うから。

北川健太郎

日時 2004年4月9日(金)  
16時30分～19時30分  
(映画上映 16時30分～18時30分)  
(パネルディスカッション 18時30分～19時30分)

「シャローム・サラーム・  
イスラエルを知ろう」関連企画

場所 鳥取大学 共通教育棟 208教室

入場料 無料

主催 鳥取大学 平和学実行委員会  
共催 難民支援団体ピースバード  
協賛 鳥取県国際交流財団  
協力 IFA 鳥取大学国際交流会 TIME(鳥取国際交流連絡会) とっとり青友会  
社団法人ハーモニカレッジ  
お問合せ先 090-8361-9192 鳥取大学平和学実行委員会 藤原智生